

近江鉄道沿線住民等アンケートの「中間集計結果」について(報告)

「近江鉄道沿線地域公共交通再生協議会(法定協議会)」において、将来の近江鉄道線を含む県東部地域の公共交通のあり方に関する検討を行うにあたり、「近江鉄道や公共交通の利用状況」や「近江鉄道への期待」などについて調査。

3 月末を目途にクロス集計を実施して分析結果をとりまとめ、今後の法定協議会における議論に活用することとする。

1 アンケートの「中間集計結果」

- 近江鉄道は通勤、通学をはじめ、買い物、通院、観光・レジャーなど、幅広い目的で利用されている。
- 近江鉄道は、移動弱者(子ども、高齢者、運転免許を持たない人)の移動手段としても重要な役割を果たしている。
- 近江鉄道は「いつでも誰でも安全に移動できるという安心感」や、「自動車免許証を返納した後も安全、安心に移動できる」という安全、安心の分野で大きく期待されている。
- 近江鉄道を通学で利用する高校生等の約 1/3 は近江鉄道がなくなると通学ができなくなると回答している。
- 近江鉄道が使えない場合の代替交通手段は「自動車」が多数を占める。
- 近江鉄道の改善策として「運行本数の増加」、「運賃を下げる」、「他の鉄道との乗り継ぎをよくする」、「お得な割引切符がある」、「トイレをきれいにする」を望む意見が多い。

※ 詳細は別紙のとおり

2 アンケートの実施と回答状況 ※回答入力率 100%

調査対象	配布数	回答数	回収率
沿線住民	7, 011	2, 831	40. 4%
沿線事業所	2, 000	1, 574	78. 7%
沿線高等学校等	3, 719	3, 420	91. 9%
鉄道利用者	1, 000	374	37. 4%

3 今後のスケジュール

- 3 月 11 日 (水) 土木交通・警察・企業常任委員会
【上記中間集計結果報告】
- 3 月 25 日 (水) 第 2 回近江鉄道沿線地域公共交通再生協議会(法定協議会)
【最終とりまとめ結果報告】

(参考)

(1) 実施日および回答締切日

対象者	実施日	回答締切日
沿線住民	1月24日(金)から順次発送	2月10日(月)
沿線事業所	1月27日(月)から順次実施	2月14日(金)
沿線学校(高等学校等)	1月27日(月)から順次実施	2月7日(金)
近江鉄道利用者	1月29日(水)に一斉実施 ・朝の通勤通学および昼間時間帯 ・一部市町では土日も実施	2月21日(金)

(2) 対象者等

対象者	対象者数および選定の考え方
沿線住民	・ 7,000名。 ・ 原則、近江鉄道駅から2,000m圏内の地域にお住まいの平成31年4月1日現在で15歳以上の方から無作為抽出。 (東近江市および日野町は対象地域を一部拡大)
沿線事業所	・ 23社(約2,000名)。 ・ 近江鉄道駅から徒歩10分程度に所在する従業員数が30名以上の事業所から選定。
沿線学校(高等学校等)	・ 17校(約3,800名)。※各校とも1年生を対象 ・ 近江鉄道駅から徒歩20分程度以内に所在。
近江鉄道利用者	・ 1,000名。 ・ 33駅中の16駅(各市町とも1駅以上)。

(3) 主な設問項目 ※対象者により設問は異なる。

- ・ 近江鉄道線の存続や廃止に関する話題の認知度
- ・ 近江鉄道の利用状況、工夫や改善点等
- ・ 近江鉄道の公共交通としての役割
- ・ 将来の近江鉄道に対する期待
- ・ 日常の行動(外出時の交通手段、自動車が使えない時の手段、自動車送迎の状況等)

(4) ヒアリング調査の実施

- ・ アンケートの対象事業所および学校等に対して、併せてヒアリング調査を実施。
- ・ 上記に加えて、沿線地域の特別支援学校および障害者就労支援施設の一部に対してもヒアリング調査を実施。

【主なヒアリング項目】

- 従業員(教員等)の近江鉄道の利用状況および送迎バスの運行状況。
- 近江鉄道線の利用促進のアイデア。
- 近江鉄道線および公共交通に関する意見、要望等。

別 紙

近江鉄道沿線住民等アンケートの「中間集計結果」

1 近江鉄道の存廃に関する話題の認知度（話題を知っていた方）

① 沿線住民	72.4%
② 沿線事業所	65.1%
③ 沿線高等学校等	47.0%
④ 鉄道利用者	84.2%

2 近江鉄道の利用状況

① 沿線住民	年数日程度以上利用する方	39.4%
② 沿線事業所	通勤で近江鉄道を利用する方	28.3%※
③ 沿線高等学校等	通学で近江鉄道を利用する方	21.6%

※ 通勤等で近江鉄道を利用している方および利用する可能性が高い従業員を主な対象としているため、沿線事業所に係る近江鉄道の利用率を示すものではありません。

3 近江鉄道を利用して外出する主な目的

① 観光・レジャー	32.3%
② 飲食・娯楽	17.8%
③ 通勤・通学	11.5%
④ 買い物	9.8%
⑤ 通院	6.0%

4 近江鉄道の公共交通としての役割

① 通勤・通学の移動手段	72.4%
② 子ども、高齢者、免許を持たない人が出かけるための移動手段	61.2%
③ 自動車を利用できない場合の移動手段	59.9%
④ 将来免許を返納したときの移動手段	46.7%
⑤ 買い物、通院の移動手段	35.4%

5 将来の近江鉄道に期待すること

① いつでも利用できるという安心感	62.2%
② 自動車免許返納後も安心、安全に移動できる	55.1%
③ 多くの人が訪れることで観光地などのにぎわいを作り出す	51.3%
④ 鉄道・駅がまちの中心や地域のシンボルとなる	43.9%
⑤ 高校や大学などの選択肢を増やす	38.6%

6 近江鉄道が使えない場合に利用する交通手段

(1) 沿線住民（通勤・通学の場合）

① 自動車（家族等の運転で送迎）	59.2%
② 自動車（自分で運転）	24.0%
③ 自転車	16.8%

(2) 沿線事業所

① 自動車（自分で運転）	28. 8%
② 路線バス・コミュニティバス	24. 7%
③ 自動車（家族等による送迎）	19. 8%

(3) 沿線高等学校等

① 自動車（家族等の運転で送迎）	56. 8%
② 自転車	34. 1%
③ 通えなくなる	31. 7%

(4) 鉄道利用者

① 自動車（自分で運転）	26. 5%
② 自動車（家族等の運転で送迎）	24. 1%
③ 路線バス・コミュニティバス	20. 3%

7 近江鉄道をもっと利用したくなる改善点（「強く思う」、「思う」の合計値）

(1) 沿線高等学校等

① 運賃を下げる	76. 0ポイント
② 運行本数を増やす	70. 2ポイント
③ トイレをきれいにする	58. 2ポイント

(2) 事業所

① 運賃を下げる	76. 3ポイント
② 運行本数を増やす	68. 7ポイント
③ 他の鉄道との乗り継ぎをよくする	61. 9ポイント

(3) 鉄道利用者

① 運行本数を増やす	80. 7ポイント
② 運賃を下げる	77. 3ポイント
③ お得な割引切符がある	70. 4ポイント